

第3次加賀市都市計画マスタープラン(案)及び 第2次加賀市立地適正化計画(案)に対する意見公募結果について

第3次加賀市都市計画マスタープラン(案)及び第2次加賀市立地適正化計画(案)について、下記の通り意見公募(パブリックコメント)を行なったところ、5件のご意見が寄せられました。

記

意見公募の概要

案 件 名	第3次加賀市都市計画マスタープラン(案) 第2次加賀市立地適正化計画(案)
公募期間	令和5年2月13日(月)～令和5年2月27日(月)
供覧資料	第3次加賀市都市計画マスタープラン(案) 第2次加賀市立地適正化計画(案)
周知方法	市ホームページ、都市計画課、山中温泉支所、行政サービスセンター、各図書館、各地区会館で供覧
提出方法	持参、郵送、ファクシミリ、電子メール、Webフォーム

意見公募の結果

5件(2名)

意見と回答

【第3次加賀市都市計画マスタープラン（案）】

番号	意見の概要	市の回答
1	<p>現在、金明地区の海岸線は波の侵食で減少の一途を辿っている。侵食の原因として、新堀川から流れる土砂が金明側には堆積しないのではないかと想定している。</p> <p>そこで、新堀川の流れを調べ、金明地区の海岸線侵食の軽減を検討してはどうか。</p>	<p>「第7章／3)片山津地地域のまちづくり方針／(4)景観保全・形成の方針」や「片山津地域のまちづくり方針図」において、片山津海岸の養浜・保全について記載しており、今後も継続して保全に向けた検討や取り組みを進めます。</p>
2	<p>人口減少が見込まれるなか、全地域の道路、上下水道、除雪費等、生活基盤を全て維持できるのか。</p> <p>また、南郷地区では、市の土木課が石川工業高等専門学校の協力のもと、住民が橋の点検をすることで、小さな修繕で、長く維持することを目指す取り組みを行っている。このような取り組みを進めつつ、人口減少が進み税収も減少する状況で、社会インフラの維持について、どこまで可能なのか、行政の限界についてはっきり明示してはどうか。</p>	<p>「第1章／1.加賀市の現況／7)都市基盤施設／(6)都市基盤施設の維持管理状況」に記載する通り、人口減少が進む中、公共施設の維持管理費が財政の負担になりうることは課題として把握しています。2040年(R22)の人口は1940年(S15)頃の人口に近づくことから、1940年頃の都市の規模であれば、持続可能な都市経営が可能であるため、集約されたまちづくりを推進しつつ、利便性向上のためスマートシティの推進を図ります。</p> <p>一方で、今後、行政だけでは立ちいかなくなることも想定されるため、「第2章／目指すべき都市像／2.まちづくりの方向性／1)まちづくりの基本方針/基本方針3」で、施設の適正配置、機能の転換・複合化を図り、官民連携での取り組みについて記載しています。</p>

【第2次加賀市立地適正化計画（案）】

番号	意見の概要	市の回答
1	<p>加賀市内の人口が減少しているなかで、誘導区域には、だれを誘導しようとしているのか。また、市内の誘導区域外の住人を誘導する場合、どのようなインセンティブを準備しているのか。</p>	<p>居住誘導の対象は市内外の方を対象にしており、市内の方へのインセンティブは、「第5章誘導施策」に記載する施策の拡充を図ります。</p>
2	<p>大聖寺地域の旧大聖寺町に居住を誘導するにしても、そこに魅力がなければだれも居住しないと思う。</p> <p>増え続ける空き家対策として、誘導区域にモデル地区を設定し、”将来の町構想”をコンペで競って、市民の関心を高めてみてはどうか。</p>	<p>居住を誘導するにあたり市民の関心を高める施策として、提案のような新たな誘導施策の導入を検討します。</p>
3	<p>高齢化、単身家族が増えていく傾向にある中で、立体的で、複合的な建物が、介護、福祉政策を遂行する上で必要と思うが、どの様に考えているか。また、大聖寺地区のように水害に弱い地区は立体的なコンパクトシティを目指すのも一つの方法ではないか。</p>	<p>施設の適正配置・機能転換・複合化は必要と考えていますが、立体的なまちづくりについては、今後の人口減少や都市の状況をみながら検討を行うべきと考えています。</p>